

産業構造審議会 製造産業分科会 宇宙産業小委員会（第2回）

議事要旨

日時：令和6年4月15日（月曜日）17：00～18：30

場所：経済産業省本館5階5-B会議室及びオンライン開催（Teams）

出席者

白坂委員長、石田委員、木村委員、笹岡委員、新谷委員、鈴木委員、松尾委員（オンライン参加）、宮田委員（オンライン参加）

議題

1. 前回いただいたご意見のポイントと対応方針について
2. 宇宙戦略基金での実施を検討中のテーマ案について

議事概要

1. 前回いただいたご意見のポイントと対応方針について
2. 宇宙戦略基金での実施を検討中のテーマ案について

事務局から資料3及び資料4を説明の後、自由討議が行われた。委員からの主な意見は、以下のとおり。

- これまでの議論を適切に反映し、緊要性の高いテーマを抽出のうえ資金配分されており、全体として賛成。まずは緊要性の高いところに重点投資するというのは非常に重要。この先取り組んでいく必要のある課題もまだ数多くある。複数の省で役割分担をうまく定めながら取り組んでいるが、将来的に抜けがでないよう、長期的な戦略も検討いただきたい。
- 経済産業省として、産業振興を意識し、ほとんどを補助のテーマに振り分けられたことは、民間事業者が本気で取り組むことになるため、良い方向。
- 商業衛星コンステレーション構築加速化について、観測、通信等、衛星コンステレーションの種類によって、想定顧客、技術成熟度等が異なり、最適な支援の仕方、ステージゲート審査の基準も変わりうる。コンステレーションの特性も考慮に入れ、画一的な対応をするのではなく、事業者の事業計画を見ながら柔軟性のある運用ができるとよい。
- 衛星サプライチェーン構築のための衛星部品・コンポーネントの開発・実証について、「事業終了後3年以内に70%以上社会実装されることを目指す」という目標を

示したことは大事なポイント。他方、個別に設定する技術達成目標と関係があるのかは分かりやすく記載した方がよい。

- 衛星データ利用システム海外実証（フィージビリティスタディ）について、公的利用、社会課題解決を目的として海外の政府機関等に焦点を絞ったシステム検証が対象なのか、コマーシャルなマーケットを見据えてやろうとしているのか。もしくは両方の可能性を見るということなのか。ねらいを明確にした方がよい。
- 衛星コンステレーションは、官需だけでカバーすることは困難で、海外へ展開していく必要がある。宇宙基本計画でも謳っているとおり、海外に打って出る人たちを支援していくことが重要。
- 衛星コンステレーションについて、「構築の加速化」と「事業化の加速化」は異なる。海外の事業者で、コンステレーションの構築はできたが、事業化ができていないというケースもあった。最終的には事業化しない限り成功ではない。事業の出口を意識していこうとすると、評価の仕方や支援期間7年以内の中でゴールをどこに置くかをコンステレーション毎に丁寧に議論すべき。
- 「商業」衛星コンステレーションの構築とされているところがポイントで、商業衛星としてのコンステレーションが最終的に成立していなければならないというのが出口。コンペティターがいる市場から顧客をどう獲得してくるかも含め、マーケティングし、事業化するところまで商業衛星コンステレーションを構築するということであるべき。
- 今回のテーマにおいて、スタートアップが支援の対象となることも想定される中で、前払い等、支払いのタイミングについて配慮が必要。
- ステークホルダー評価のシステムは重要なポイント。「事業終了後3年以内に70%以上社会実装」といった出口に関する目標がしっかりあって、それを担保するものとして、投資家・金融機関やユーザー候補からの評価が、ステージゲート審査など、中間的な評価の中でも活用されるとよい。最終的な出口を目指して取り組んでいく意識付けをするためにも、こういう評価システムがあるのはよい。
- ベンチャー等では、技術開発は進んでも企業体力がつかず頓挫していくこともある。例えば、非宇宙分野への展開など、ベンチャー等が企業体力を強化していくことも評価の中で見ていくと良いのではないかな。

以上